

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	30	大学等名	金沢工業大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、長らく推進してきた全学的教育改革の取組実績を総合し、正課と正課外の連携・接続を目指す全体最適化に向けて、必修6科目17単位の理工系PBL科目群「プロジェクトデザイン教育」を中心に、国際的な技術者教育の考え方を採り入れ、新たに開発したe-シラバスとポートフォリオによる統合型のアクティブ・ラーニング・システムを構築する改革が進捗していることは十分に評価できる。また、産業界が求める人材育成に対応した教育の成果は、正課外教育プログラムへの参加学生数の増加、また就職内定率、内定時期、内定先企業規模等の推移に表れ、ひいては当該大学への志願者数増加にも結び付く結果となったことは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、おおむね申請時の計画に沿った形で着実に実施され、アクティブ・ラーニングについて未経験の教員を経験のある教員とペアにして担当させることによって教員参加を広げたり、学期途中で学修成果を把握し、それに基づいた指導に力を入れて留年率の改善と成績評価の厳格化に努めたりと、工夫がなされていることは十分に評価できる。また、必須指標のうち「学生の授業外学修時間」が大幅に目標値を超えている点も高く評価できる。ただし、目標値が達成されていない指標が散見され、特に任意指標である「課外教育への参加率」は当該大学の教育改革の趣旨からいえば目標値に達することが望ましく、今後も引き続き努力することが求められる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を中心に「部長会」と「教育改革加速委員会」の並置による全学的な体制が整備され、IR部門での集計・分析結果が全学、学科・課程、授業科目等の各レベルに多層的に提供され、それぞれの会議体で改善策の検討やFD、SD活動の計画が行われるとともに、「外部評価会議」及び2つの評価機関による3年ごとの大学認証評価の機会等、といった充実した評価体制のもと、PDCAサイクルが回されていることは評価できる。ただし、次世代のリーダーとなるべく選出された教職員の人材育成を図り、教職員の業務連携を強化することは重要だが、一部の教職員に過度な負担がかからないよう配慮することが求められる。

事業成果の普及については、改革の参考にした技術者教育のCDIO国際会議において精力的に情報発信し、平成30年には日本初のCDIO国際会議を開催したことが高く評価できる。また、他大学から多数の視察を受入れ、同時に他大学への派遣も積極的に行い、高大接続においても、PBLと教育評価をテーマとした高校、教育委員会及び高等学校工業教育協会との連携協定を発展させたことは十分に評価できる。